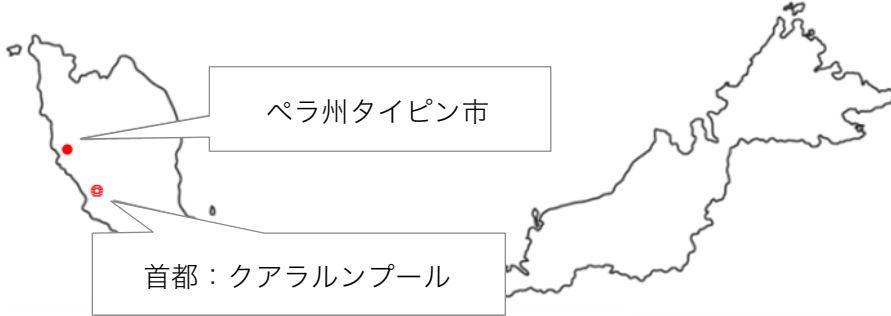


3. 学習開発センターの強化

(1) 活動報告（概要）

		助成元	日本社会福祉弘済会
国名	マレーシア	団体名	Persatuan Perkhidmatan Komuniti Taiping [ESDA] (タイピン・コミュニティーサービス協会)
責任者	Mr. Chow Chee Kheong (Stephen)	担当 修了生	スティーブン（11期） Mr. Chow Chee Kheong (Stephen)
事業名	学習開発センターの強化		
	<p>タイピン市はマレー半島中西部に位置するペラ州第2の都市で、人口約19.1万人（2007年）。半島を南北に走る主山脈の西麓にスズ鉱山の町として成立した。</p>  <p>ペラ州タイピン市</p> <p>首都：クアラルンプール</p>		
活動報告（目的・内容、成果など）			
<p>1. 事業計画概要</p> <p>社会から疎外され、貧困状態にある子どもたちを対象とした学習開発センターの運営、授業の実施。助成金額 28.7 万円</p> <p>2. 目的・実施理由</p> <p>適切な教育、基礎的な電気技術とコンピューター知識を提供することで、社会から疎外された子どもたちが適正な価値観と知識を得られるよう支援し、貧困の連鎖を断ち切る。</p> <p>3. 実施内容と成果</p> <p>助成金は、まずコンピューター・クラスや基礎的な電気技術等の教育のプログラムを増やし学習開発センターを強化することに活用された。</p> <p>学校に通うほとんどの子どもたちには、インターネットで対応する必要がある宿題が出されるが、貧困家庭の子どもたちは自宅でインターネットにアクセスすることができなかった。しかしこの助成金の支援によってセンターにブロードバンド WiFi が開通し、子どもたちはインターネ</p>			

ットにアクセスすることができるようになり、センターの教師達もそれを使ってコンピューターの使い方などを教えることができるようになった。

次に助成金を用いて子どもたちが使用するワークブックや文房具、ホワイトボードなど、授業に必要な資源を増やした。その他にも、折りたたみ式のテーブルやプラスチック製のいす、扇風機、LED 電球を購入し学習環境を整備した。さらに、14 歳から 16 歳の若者たちに、はんだ、ワイヤー結合、バッテリー・テスターの使い方などの基礎的な電気技術ならびに電子部品の機能等について教えるために教材を揃えた。また、タンバリンとマラカスを購入し、音楽クラスの充実も図ることができた。

教育環境が充実したことで、子どもたちは積極的にセンターに来るようになった。また、活動を通して、子どもたちのモラル、マナーが向上し、人間性も成長した。世界を知り、自身の可能性の広がりを知ることで、子どもたちが自分たちの将来の仕事（キャリア）に夢やビジョンを語れるようになった。

4. 今後の展望

近い将来、学習開発センターの活動を通じて、高等教育や技能訓練に関心のある子どもたちへの奨学金を創出する、あるいは彼らが奨学金を得られるようにしたい。